

非暴力直接行動

Vol. 108
'80 10 24

戦争抵抗者インター日本部 略称 ウリ 大阪市阿倍野区旭町2-12-2

「原発労働者出すな」

釜崎で反原発集会

【大阪】二〇日午後六時半から釜崎の西成市民会館で「第二回反原発集会」が行われた。前回の第一回にはわりと多く集まったのだが、今回は少しすくない、五〇人くらい入る会場に二〇人くらいでこじんまりと行われた。

司会の人から先月の集会で釜崎から原発へ働きに行った人が紹介された。



紹介された。

水田さん、自分が反原発をやりたいと思ったのは「原発の平和利用で反原発のじらまいたら、実行委員が飛んでくる」と思っていた。それで、それでいっ

たん知ってもういらぬんやんやんが見えてきて「アンタこんなん知ってるか」とみんな話にまわった。七〇年安保なんかでもジグザグのデモやって、シャマや女はとんかき、みだりに、運動の中から女が切り出されてきた。また関電に抗議に行ったら、

「女の人は原発みだりにむかしのことと考えるな、料理教室へ来て下さい」と言いきる。女もだまっておれん、このままやつたら男といっしょに地球もどろろびるわどろびるわ」とわたりやしくしゃべった。これを聞いていたオッサンたちも彼女が心算にたえて拍手（大音のメロをあげた人も）。

つぎにタンカー船の原油の不法投棄をルポした加藤さんは、「原発も、石油、GTSもみんな一番悪い立場の人間を犠牲にして成り立っている、出光もトカゲのシッポ切りで企業は無事で責任を当事者に押しつけた。このよう

な最前線の労働者は基本的に差別の構造にある。釜崎の労働者は労働の廃棄物としてつかわれてきた、この差別を許すことはできない」とのべられた。

その後映画「核」を上映し、それぞれの参加者から発言を求めた。

この集会をとりくんだ原油処理の労働に従事する労働者から「今日の集会で、原発をまいたが、釜崎と原発はピンとこんなあ」という労働者が多かった。しかし原発労働者は山崎、寿町、釜崎など原発労働者が多い、

「一日一五分働いて九千円でどや」と血闘銀行のウラなで声かけられて、何回かやっているうちにパンク（新卒以上）になつて廃人にさせられていく。寄せ場の労働者は労働廃棄物や、これ以上ナメられたらあかん」と参加した仲間が甘い話にのるなと訴えた。

「被爆労働者の会」の中村さん（一広島・長崎で被爆した人）の中で、公務員など政府との雇用関係にある人たちは三〇万円

の金で、民間の人たちには一銭もでないという差別の裏面や、被爆手帳をもっているも金で差別をつけるから明らかでない、被爆をかくして生活している人もい

る。私はこの前指を切って入院し、二日間血が止まらなかった」といふ言葉はあらためて被爆の恐ろしさを感じ知らされた。

被災労働者同盟から岩屋誠へ支援要請が行われ、最後に戦争抵抗者同盟の向井さん「この世の中このままだと長いことない、やれる時にやらんといかん」と発言、主催者の人から今後三回、四回とつづけていくことを確認して終った。



10.25 PM 1

南天満公園
(天神橋北側すぐ)

反原発
秋まつり

子供向け「ぜみ」

PM4市民の
大デモ(東電)

war resisters' international

宇利乃奈加乃乃 安伊直登改 喫天乃乃里越

振替 大阪三三七三七 ウリジャパン 向井 孝

汝、花と武をせよ！

10・21国際反戦デー。いまこそ直しを！市民連合が呼びかけた花束デモ。よっしゃ、やりましょうと「良心的軍事費拒否」「不払い連」「反原発ガールズ」「WRI」の面々は、みんなで花束の道行く人に「ラとしよにあげて大歓迎」プラカード、行どん、手提灯、それに反戦とかいた三疊敷の大黒旗、女子の白装束や、不払い連、電球小僧のお面も交って、市民グループの総勢およそ一五〇人の大隊列！麻布公園立すいの余地もなく、夜のうすらあかりをうめつくした労働者三つ（主催者発表）のデモの中で、一段と明るく一段と陽気で花やかに、大いに氣勢をあげた……

こんな男どもが……

FJ

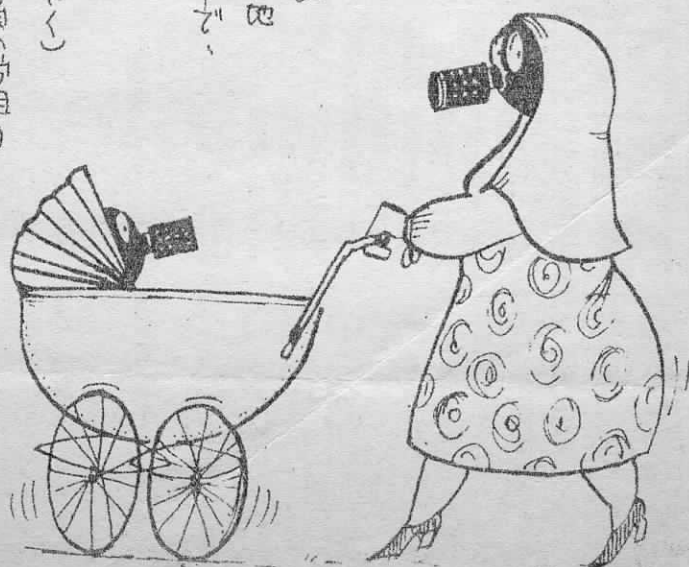
ところで私は、軍事費拒否の会しのビラの文策から印刷一切つくる役割があつて、その前日から、うんうん唸つてつくりあげた会心？の作、山型色紙のビラ二千枚、デモ出発前の隊列をわたり歩いて、とても大切なものを渡す気持ちで、一枚一枚「これ、読んでみて下さい」「いまだなく家へもつて帰って、よんで下さいね」と声を（下段中程へ★）

（★上段左端よりフック）

かけながら、勤員の労組のなかへはいっていった。

昨年の、10・26のときも同じような経験をしたけど、今日ほまた、あまりにもひどかった。

「なんや、このビラ」「おれや、よう読まんねん」「くらいならまだまし。」「ホテルの案内かいなし」「おれ、武蔵（あ）



もつてゐるでエ、「自征隊はいるんぢやうの」……

こつちが若い？ せやと思つと、ホンマ、バカにして、男のスケベ根性丸出しでがらがつてくる。とくに五・六人かたまつて(ほんなどきしかうぢん)「ワイで歸界なことを自慢するみたい」に。

「こいつらホンマに今日、何しにきたんや！」となりてかつた。こんな手合が、私がかまんして手渡したビラ約六、七百のうちの60%、いや私の感じだと80%や。こういう男らが、戦争にいくと、強姦なんか平気でやる奴や。いや今日集つた男らの半分以上は、キーセン観光なんか得々とやつてるにちがいない。

やつとビラまき終つて、仲間のとこへ戻つて話してゐるうちに、あまりにも情なくて、なみだが出てきた。



カマのHさんがなぐさめてくれて、「いろいろなか来るんがエエんや。そんな奴もこれる、いうのがエエんや。男ばかりやと、そうなりやすい。いち腹たてたら、やつていけへんヨ」となつたが、そのリクツはわかつてゐる。

あたしや、コソうや、いろんな人があるのは当り前やねえ」と、判つたような顔は、断じて、どうしてもでけへん。

after school

なにが反戦や、なにが団結や、なにが労働者や、あたしや女として、人間として、ほんまに聞いてあきれるヨ！

こんな男どもが、かりに憲法改定に反対し、自征隊増強を叫ぶと叫び、もののはずみで(ほんなどきしかうぢん)かりに投票で新しい政權をつくることになつたとしても、それが一体、どういうことになるか。

そのような男どもとなれあひ、それを頼みにしている、いわゆる「革命運動」と社会変革して、一体なんや。私ら女にとつて、そのような「男の運動」をも、根本から革命するーそれこそ女がやるしかないのがほんまの革命運動や！
もちろんそれは、なかなかカンタンなことやない。しかし、数をたのむのでなく一人一人の男が變つていくような運動を組まんことには、おさままつくらや！

